

## Ⅳ 研究活動と研究体制の整備

### Ⅳ－１ 研究活動

#### (1) 論文等研究成果の発表状況

2002年9月22・23日、"Nowton Court Colloquium on the History of the Book and Digitisation"（書物史とデジタル化についてのナウトンコート小学会）を主催した。

これには慶應義塾の教員4名、学生7名、英国を中心とした欧米からの外部研究者13名が参加し、それまでナウトンコートを海外拠点として行ってきた大英図書館やケンブリッジ大学所蔵貴重書のデジタル化の成果を公開し、書物史学・書誌学におけるデジタル化の意義を討議した。

### Ⅳ－２ 研究体制の整備（経常的な研究条件の整備）

#### (1) （個人・共同）研究費・研究旅費の充実度・問題点

人文科学メディア研究センターの経常的活動は、2001年7月以来凍結状態にあり、設備整備費や人件費、研究費等一切の予算が計上されていない。そのため、この組織での活動は、人文科学メディア研究センター（HUMI）の前身である「HUMIプロジェクト」の活動の現在の経済的基盤である文部科学省のオープンリサーチセンター整備事業（ORC）の一環として進められている。今後研究所として機能していくためには、根本的な予算的措置が必要となると考えられる。

## Ⅵ 教育研究のための人的体制

### (2) 研究支援職員・組織の充実度

ナウトンコート連携スクエアに設置された、人文科学メディア研究センターは、組織の上では現在所長のみ1名が存在し、所員や職員などは一切配置されていない。そのため、前述の小学会や、ナウトンコートを海外拠点とする貴重書デジタル化に関する活動は、HUMIプロジェクトの活動に関わる教員らによって実施された。研究費面と同じく、研究所として活動を進める上では、人的な研究支援体制を新たに構築する必要がある。

### (8) 学内外の教育研究組織・機関との人的交流の状況

学内では、HUMIプロジェクト参加教員の一部が、実質的にこの組織における活動を行っているため、HUMIプロジェクトを通じて、デジタルコンテンツ研究運用機構やORCに参加する

研究者や、メディアセンターとの交流を行っている。学外においては、ケンブリッジ大学、大英図書館とのデジタル化共同プロジェクトによって、これらの組織の中世写本や初期印刷本、奈良絵本などの書物を対象とする研究者らと密接な係わり合いをもっている。また、デジタル化によって得られたデジタル画像を用いた研究書 CD-ROM の製作や、画像データを活用した書物学研究においては、デュモンフォート大学、ブリガムヤング大学、ニューヨーク大学などとも連携している。

以 上